アイヌ関係団体の文化伝承、地域住民のコミュニティー活動の拠点

町内初の多機能型生活館「白老生活館」改築工事着工 来年４月供用開始予定

外観イメージ図

白老生活館は1962（昭和37）年に開館。1979（昭和54）年に改築してから43年が経過し、建物の耐用年数を大幅に超え、施設・設備の経年による老朽化が著しい状況であったことから、高砂町２の現地で改築します。

新たな白老生活館の延べ床面積は、従来の1.6倍となる約483㎡。炉・神窓などを設置し、季節や天候に関わらずアイヌの伝統儀式を可能とする「儀礼室」をはじめ、アイヌ伝統料理の伝承教室などの開催が可能な「調理室」、地域の方々や各団体が会議、研修、サークルなどが活動を行なえる「研修室」「ホール・集会室」などを施し、アイヌ文化の伝承や町民のさまざまなコミュニティー活動に利用できるよう多機能型生活館として整備を進めています。

アイヌ文化の伝承儀式を執り行う「儀礼室」。床に伝統儀式用の炉を設けます（イメージ図）

問い合わせ先：政策推進課　アイヌ政策推進室　☎８２－７７３９

アイヌ伝統儀式「チセコテノミ（地鎮祭）」
新生活館の工事安全、完成を祈る

来年４月の供用開始を目指す新たな「白老生活館」（高砂町２）の改築工事に合わせて、白老アイヌ協会（山丸和幸理事長）は７月31日、伝統儀式「チセコテノミ（地鎮祭）」を同所で行い、大塩英男町長、松田謙吾議長ら来賓を含め関係者約50人が完成への祈りをささげました。

アイヌ民族は、土地を清めてその使用を神に祈願することで初めて神の加護を受けることができると考え、「チセコテノミ」はアイヌ文化復興拠点「民族共生象徴空間（ウポポイ）」の中核施設・国立アイヌ民族博物館の建設の際も行われました。

山丸理事長は「新生活館はアイヌ文化の発信の拠点で、さまざまな文化伝承に活用ができる多機能な施設。真摯な気持ちで儀式を執り行いたいし、こういう精神文化を披露できることがよろこばしい」と話していました。

ウポポイに勤務する同協会の若手職員らが建設予定地を古来の方法で測量（エパカリ）し、四隅にイナウを立て炉にあたる場所に木を組み、ササやヨモギで作ったタクサと呼ばれる枝で、「フッサ、フッサ」と唱えながら地面をたたいて清めました。

同協会の新井田幹夫さんが祭司を務め、本祭が執り行われ、模様を資料として映像に収めました。